

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.78

2006/05/13

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会



今年も見事に咲いたカスミザクラ

樹間越しに愛でるのが一番のカスミザクラ (06/05/02)

「山門水源の森」の春の訪れは、ミツガシワの開花では10日、カスミザクラでは1週間の遅れとなり、後に続くトキワイカリソウ、チゴユリ、ユキグニミツバツツジは一気に咲きそろうという事態になった。寒冷地の草本が一気に咲くのに似た状態である。その分花期が短いような気がする。植物の世界だけでなく動物の世界でも同様な傾向が見られる。トンボでは、シオヤトンボが5月4日に散発的に羽化しているのが観察されたが、6日に目を疑う程に附属湿地で羽化した。がそ



羽化に向かうヤゴ



羽化したシオヤトンボ (06/05/06)



キセキレイに捕らえられたシオヤトンボ

の大部分は「やまかど・森の楽舎」の軒下で雛を育てるキセキレイの餌食となっている。なんともやるせない感情に駆られるが、これも自然の摂理とただただ観察するのが精一杯であった。

カエルの世界も既に産卵モードに入っており、10日には附属湿地でシュレーゲルアオガエルの卵塊が湿地際の草むらで確認され、近くにはシュレーゲルのペアも観察された。このペアは産卵直前であったのかも知れないのだが、編集子の撮影で離散してしまった。またモリアオガエルの雌の巨



シュレーゲルアオガエルのペア (06/05/10)



モリアオガエルの雌 (06/05/10)

体も湿地で確認された。今後の降雨の状態にもよるが、今年のカエルの仲間の産卵はかなり早まるかも知れない。ちなみに昨年のモリアオガエルの一斉産卵は7月1日であった。低温から一気に高温に変化した今年の天候がこの現象を招いたのだろうか・・・



草を刈った際までチゴユリが分布 (06/05/08)

密集するササユリの株 (06/05/02)



色とりどりのトキワイカリソウ (06/05/01)

2005 年の YAMAKADO NEWSLETTER の何回かに、観察コース沿いの草刈り効果が絶大であることを報告したが、今春のチゴユリ、ササユリ、リンドウの発芽状況を見るとなお一層その効果の程に感嘆する。中でもチゴユリは、昨秋草刈りを実施した箇所では、刈った部分にはカーペット状に分布を広げており圧巻である。トキワイカリソウも数が多いことはこれまでも確認しているが、今年は昨年草刈りを実施した部分に広範な分布となった。これほど草刈り効果があるとは、正直考えていなかったことである。今年の連休は過去最高の来訪者・団体を迎えたが、全ての訪問者が異口同音に「素晴らしい」と歓声を上げられたのは、この保全作業の効果と開花した植物の美しさと多さであった。この森のシンボルの 1 つであるミツガシワは、湿原では 5 月 10 日現在五分咲き程度と遅れているが、附属湿地では 5 月 1 日が最盛期となった。昨秋温暖化で「異常事態」を迎えているのではと心配して採取したブナの種子の発芽であるが、播種した大部分が見事に発芽した。その数の多さに驚嘆すると同時に、



附属湿地のミツガシワ (06/05/01)

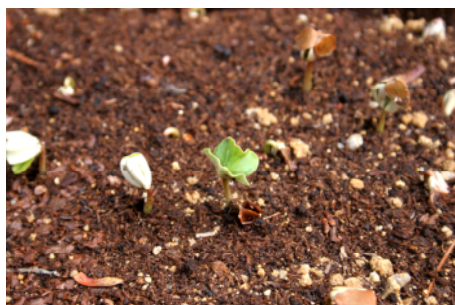


連日混み合った「やまかど・森の楽舎」



ガイド要望が続く観察会 (06/05/09)

自然状態での発芽の状況はどうかと調べてみると、播種したものの同様、ものすごい発芽量である。「ブナの森」では、足の踏み入れる場所もはばかりほどの発芽状況である。



播種したブナの発芽 (06/04/24)



発芽続く (06/04/29)



本葉も伸長 (06/05/09)

